

発達障害児の支援のために 地域ネットワークの 確立をめざす

●社会福祉法人 神栖市社会福祉協議会 [茨城県神栖市]
<http://www.kamisushakyo.com/>

発達障害に対する正しい理解を目的とした「発達障害療育者研修会」

社会的サポート 発達障害を抱える人への

茨城県東南部に位置する神栖市(人口91,151人、平成20年2月末現在)の社会福祉協議会では、現在、生活課題別支援活動の一環として、「発達障害児・者支援ネットワーク」構築の取り組みに着手している。

家族からの相談をきっかけとして

ある日、アスペルガー症候群と診断された子どもをもつ家族が、学校や地域の理解が得られず、相談する場もない状況で神栖市社協の相談窓口を訪れた。

この相談をきっかけとして、社協では「同じ悩みを抱えて苦しんでいる家族がいるのでは」との想いから、毎月1回開催している「地域ネットワーク勉強会」で、発達障害関連の勉強会を開催した。

そこでは、当事者やその家族以外にも、実際に集団活動の現場で当事者たちを支援している保育士や幼稚園・小学校教諭、地域住民など多数の参加がみられ、「行動に特異性のある子」の支援には、誰もが孤立し、悩んでいる現状が明らかとなった。

これらのことから、発達障害を抱える本人のみでなく、最も身近な存在である家族や支援者が連携し、協力するしくみが確立されていない課題が浮き彫りにされた。

そこで、社協が旗振り役となって、それぞれの機関の垣根を越えて、早期発見から適切な支援に向けての体制づくりに取り組むこととなった。

セルフヘルプ活動の支援と療育者の養成

同社協における具体的な活動としては、まず、発達障害児をもつ家族などを中心に、障害に関心のある住民が集い、同じ悩みを共有しながら情報交換のできるセルフヘルプ活動の立ち上げとその支援がある。

これは、平成16年1月から毎月1回、「アスペルガー症候群を考える会(一休の会)」として開催している活動で、現在では毎回の参加者が10名を超える状況になっている。

「一休の会」には、当事者家族に加え、アスペルガー症候群への関心が高い小学校教諭や専門家も参加し、話しあいや心のふれあいをとおして、家族が抱える生活への不安を解消すると

もに、課題と向き合いながら生きるための活力を補給する場となっている。

また、当事者とその家族を支える療育者が、発達障害そのものに対する正しい理解を得ることを目的として、平成17年度より専門家を招いての夜間連続講座「発達障害療育者研修会」(全5回)を開催している。この講座には、発達障害に関心のある一般市民も含め、これまでに合計94名(第1期31名、第2期29名、第3期34名)が全課程を修了した。

研修会の修了生からのアンケートでは、「これまで不安を抱えながら支援をしていたが、今回の研修会を通じて基本的な障害理解を得られた」、「同じ悩みを抱える支援者同士が情報を交換しあったことで、一人ではないという実感を得られた。ネットワークを築いていくことの重要性を認識した」などの反響が寄せられている。

この連続講座の「その後」においても、修了生を対象にフォローアップ研修を行って参加者の連携を深め、小学校・中学校、そして専門機関へのアプローチがスムーズに図れるような協力体制づくりをめざしている。

研修会の開催によって、市民の間で障害への理解が深まり、発見と対応能力が高まることが期待されているが、地域内には、まだまだ発達障害を抱え苦悩している当事者や家族が潜在化している。

そのため、社協では、平成20年度から不安の解消とより専門的なアドバイスなどが得られる専門相談室と併せて、保育園、幼稚園等での適切な療育支援に向けた訪問相談を実施する予定となっている。

こうした取り組みにおいては、発達障害の正しい理解と集団場面での支援の方法を習得できる機会を提供し、保育士や教諭などが抱えるさまざまな課題を共有しあいながら、解決できるつながりをコーディネートすることが大切にされている。

発達障害者支援の今後に向けて

平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、障害のある幼児、児童生徒の支援をさらに充実していくことになった。

神栖市社協でもこれを受け、今後、発達障害児が通常学級においても適切な支援を受けられる体制が、市内全域で成り立つように教育委員会との連携を強化していく考えである。



所沢市教育委員会の阿部利彦氏を招いての講演会



発達障害児支援に向けたムードづくりが 私たちのミッションです

み うらしゅうさく
三浦秀作さん
神栖市社会福祉協議会 まちづくりグループ

社会的な流れのなかでは、徐々に発達障害に対する認知がすすんできています。しかし、本市においてはこれまで発達障害の早期発見から集団場面への橋渡しや、機関間の連携などが思うように機能できていない状況にありました。

この支援や連携のしくみを有効に機能させていくための要は、何よりも「身近な支援者や市民による障害特性の正しい理解」である

と感じています。そしてこの理解は、特別な子どもたちに特別な援助を提供していくのではなく、発達障害児とそうでない子どもたちがさまざまな場面がかかわり、遊び・学べる環境に重点が置かれるべきだと考えています。

そのため、神栖市社協では、直接児童にかかわりをもつ保育士や幼稚園教諭をはじめとする多くの身近な支援者や市民に、障害に対する正しい理解と支援のコツを学ぶ機会として、夜間の勉強会や連続講座を開催してきました。

今後は、市内全域で当事者を中心とした当事者ネットワークの構築や、支援者向け相談室等の充実を図り、理解者を増やして、誰もが「発達障害」を意識しなくてもよい環境づくりに寄与していきたいと思っています。また、市民の間でも発達障害児・者支援のためのボランティアや市民活動が育つように、各関係機関とのパートナーシップを深めていきたいと思っています。